



ファーウェイ・ジャパン サステナビリティ・レター

— 私たちができること —

2016 夏

デジタル・デバイドを 解消し、世界を つなぐ

雑誌「オルタナ」に
ファーウェイ・ジャパンの
取り組みが掲載されました



世界最高峰に通信環境を

通信は世界への扉、人材育成で豊かな社会を

先進国のデジタル・デバイドも改善へ

寄付や「特別修理対応」で熊本支援



ファーウェイのソリューションで、アフリカではブロードバンド・サービスの普及率が上昇している

デジタル・デバイドを 解消し、世界をつなぐ



今もなお、世界人口の53%はインターネットを利用できていない。デジタル・デバイド(情報格差)は大きくなり続けている。全世界に通信インフラを提供するファーウェイは、通信インフラの整備や端末の提供、ICT(情報通信技術)人材の育成を通じた「デジタル・デバイドの解消」をCSR活動の柱に据えて活動し続けている。



ファーウェイはネパールの3大山岳地帯である中西部・西部・極西部に2Gネットワークを展開し、800万人に通信環境を提供している

普段、インターネットからどんな情報を得ているだろう。例えば、おいしいレストラン探し、家電の性能や価格の比較、英会話を習ったり、SNSで友人の近況を眺めたりすることなどが一般的だろうか。

今や空気のように当たり前となったインターネットを利用すれば、日本だけでなく、世界中のニュースやノウハウを集めることができる。それは個々人のプライベートを充実させるだけでなく、ビジネスを発展させ、よりきめ細やかな行政サービスを提供する手助けにもなっている。

もし、会社や学校、役所でインターネットがまったく使えなくなったとしたら深刻だ。企業は存続できないかもしれない。

しかし、世界の53%はいまだインターネットにアクセスできていない。「インターネットを使える人(社会)」と、「インターネットを使えない人(社会)」との間には、どんどん格差が広がっている。

こうしたデジタル・デバイド(情報格差)の問題は、およそ20年前から指摘されているにもかかわらず、世界電気通信

連合(ITU)によれば、2015年末時点で、推計38億8千万人がネットを利用できない状況にある。

■世界最高峰に通信環境を

発展途上国の中でも、南アジアは世界で最もデジタル分野の普及が遅れている地域の一つである。人口約2800万人のネパールにおけるネット普及率は約31%。普及を阻む原因の一つは物理的な壁だ。

ヒマラヤ山脈に位置するネパールには、サガルマタ(英語名エベレスト)をはじめとする8000メートル級の山々が立ちふさがっている。

通信局を建てようとした場合、まず、物資を運ぶのが一苦労だ。人力か、あるいは牛に運ばせるか。ヘリコプターでの輸送はとても高つく。電力を供給するためのメンテナンスも一大事である。厳しい寒さを迎える冬期には、当たり前のように停電が起きる。

こうした状況に対し、広範な通信環境の整備を行ったのが、

ファーウェイだ。

1987年に中国・深圳で設立されたファーウェイは、170カ国以上でICTソリューションとサービスを提供し、世界人口の3分の1が利用する通信環境をサポートするグローバル企業だ。携帯電話基地局など通信関連機器で世界第2位、スマートフォンでは世界第3位のシェアを占めている。

同社は「デジタル・デバイドの解消」をCSR戦略の重要な柱としており、グローバルにプロジェクトを展開している。ネパールもまた、対象国のひとつだった。

ファーウェイが提案したのは、「シングル・サイト」。太陽光発電を採用したエネルギー効率の高い屋外型基地局による通信ネットワークの構築だ。この方式により、現地の通信事業者は基地局の設置費用を大幅に抑え、かつ外部からの電力依存を低減させることができた。

2013年末時点で、ネパールの3大山岳地帯である中西部・西部・極西部に2Gネットワークを展開している。カバーしているのは全国民の約3割、800万人だ。



2014年10月、ボーダフォン財団による「インスタント・ネットワーク・スクール」プログラムに協力し、ケニア北部のダダーブ難民キャンプにタブレットを寄贈した

インターネットにアクセスするには、通信環境を整備するだけでなく、端末も必要である。

そこで、ファーウェイは、コンピューター所有率が10%に満たないインドの179の学校に対してデスクトップパソコンやノートパソコンを、35万人が生活する世界最大の難民キャンプ、ケニアのダダーブでは13の学校にタブレットを提供している。

■先進国のデジタル・デバイド問題も改善へ

デジタル・デバイドの問題は、発展途上国に限らない。先進国でさえも、人口の約15%が通信を利用できていない現状だ。

広大な山岳と農地は、ニュージーランドに観光と農業による大きな収入をもたらしている。しかしこの複雑な地形は、同国の農村部の通信にも、大きな課題をもたらしている。



ニュージーランドの農村部での通信障害も解消している

ここにファーウェイは、LTE APT700ネットワーク構築を提案した。この形式は700MHz帯という電波を用いる。比較的波長が長いいため、基地局から遠くまで電波を飛ばすことができるほか、障害物を回り込むなどの特性があるため、効率的に通信エリアを広げることができる。日本でも2015年に導入が始まった新しいテクノロジーだ。

現在は、ニュージーランドの農村部に住む20万人（同国の人口の約4%）が、都市部と変わらない4Gの速度で通信を利用できるようになっている。

■通信は世界への扉、人材育成で豊かな社会を

通信局を建設し、端末を配布したとしてもなお、デジタル・デバイドは解消しない。インフラを管理するとともに、インターネットをいかに扱うか、伝え広める役割の人材育成が必要だ。

そこで、ファーウェイは世界各国の学生に実践的なICT研修、奨学金、就労体験、インターンシップを提供する「Seeds for the Future」プログラムを2008年から続けている。その一環で日本でも、中国・深圳本社でのICT研修を実施している。2015年時点で、オーストラリア、フランス、ドイツ、ガーナ、インドネシア、ケニア、モロッコ、ノルウェー、スペインなど54以上の国の150以上の大学で、1万人以上の学生にプログラムを提供した。

ファーウェイのグローバルCSR責任者、ホリー・ラネヴォザナニー氏は「私たちは、業界のリーダーとして、世界のすべての人々にブロードバンドを届ける社会的責任があると考えています」と強調する。

「先進的な通信サービスは、人々により多くの学び、より多くの分かち合い、そしてより多くの達成をもたらします。私たちは、教育や開発への扉、新たな出発点を世界に提供し続けます」（ラネヴォザナニー氏）



ファーウェイのグローバルCSR責任者、ホリー・ラネヴォザナニー氏

ファーウェイ・ジャパンのCSR活動報告

寄付や「特別修理対応」で熊本支援

2016年4月14、16日に発生した熊本地震を受け、ファーウェイ・ジャパンは熊本地震被災者への義捐金として、会社からの寄付金300万円と従業員の募金を合わせ、日本政府を通じて寄付を行った。また、被災したファーウェイ製品（通信事業者から販売されているものを除く）に対し、特別修理サービスを提供している。対象は熊本県（全市町村）に住む個人で、修理内容にかかわらず、往復送料含めて無償で修理する。期間は、7月31日のファーウェイ・カスタマーサービスセンター到着分まで。同社は東日本大震災の復興支援にも継続的に取り組んでいる。

新たな産業革命の基盤づくりを目指して

ネットワーク技術の祭典「Interop Tokyo 2016」が6月8-10日の3日間にわたり、幕張メッセで開催され、ファーウェイ・ジャパン会長の閻力大^{エン・リダ}による基調講演が行われた。ファーウェイ法人向けICTソリューション事業部プレジデントでもある閻は、フランスのテレビ局やオーストラリアの水道局におけるクラウドコンピューティングの活用事例や、「ヒト」ではなく「モノ」のための情報通信技術「NB-IoT」がもたらす可能性などを紹介し、ファーウェイのビジョンである「LEADING NEW ICT, BUILDING A BETTER CONNECTED WORLD (ICTをリードし、よりつながった世界を作る)」の具体化を告げた。

このほか、9日には、ファーウェイワイヤレス・ネットワーク・プロダクトラインワイヤレス・マーケティング・オペレーション担当プレジデントの邱恒^{キョウ・コウ}が「来るべきモバイルIoT市場予測」について講演。

10日には、ファーウェイ法人事業本部ITソリューションセールス部プレジデントの董理斌^{ドン・リービン}が、「クラウドソリューション」などを議論するスペシャルトークセッションに登壇した。ファーウェイは、よりつながった世界の実現に貢献し、技術革新を続けていく。



ファーウェイ・ジャパン代表取締役会長の閻力大

ファーウェイ・ジャパン公式
フェイスブックページはこちらから



About HUAWEI

ファーウェイ（中国語表記：華為技術、英語表記：Huawei）は、1987年に中国・深圳（シンセン）に設立された従業員持株制による民間企業で、世界有数のICTソリューション・プロバイダー。ファーウェイは通信事業者、企業、消費者の皆様へ最大の価値をもたらすべく、競争力の高い製品やサービスを170カ国以上で提供し、世界人口の3分の1にもおよぶ人々のICTソリューション・ニーズに応えている。



華為技術日本株式会社／渉外・CSR部
ファーウェイ・ジャパン

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-5-1 大手町ファーストスクエア ウェストタワー12階
代表電話番号：03-6266-8008 代表FAX番号：03-6266-8000
<http://www.huawei.com/jp/sustainability>



©華為技術日本株式会社

本誌掲載の写真・記事などのコンテンツにおける著作権は、弊社または弊社が利用許諾を受けた者に帰属します。弊社の承諾なしに、無断転載および転写を禁じます。